

農業センター ニュース No.85

東京都小笠原
亜熱帯農業センター(父島)
Tel.04998-2-2104
Fax.04998-2-2565
営農研修所 (母島)
Tel.04998-3-2129
Fax.04998-3-2006
畜産指導所 (母島)
Tel.04998-3-2275
Fax.04998-3-2276

～ 第11回パッションフルーツ品評会の審査結果 ～

6月8日に JA 東京島しょ小笠原支店主催の「第11回パッションフルーツ品評会」が開催されました。審査は、小笠原村役場産業観光課、小笠原支庁産業課、亜熱帯農業センターの職員で行いました。

今年のパッションフルーツ栽培は、1月の低温で開花の遅れが懸念されましたが、その後、日照時間が多く、生育は順調となり品評会には優れた果実が出品されました。今年は、出荷箱(1.5kg以上)部門のみで審査を行い、父島から1点、母島から7点の出品がありました。審査のポイントは、①大きさ、②色のり、③大きさと色のそろい、④キズの有無、⑤額やめしべの残痕の有無、⑥荷姿などです。出品された8点はどれもが大きな果実の秀品がそろい、審査に苦労しました。その中でも全ての条件を満たした藤谷農園(母



写真1 金賞 藤谷農園のパッションフルーツ
島)が金賞を受賞しました。銀賞は友野農園(父島)、銅賞は比企農園(母島)でした。

品評会終了後に、農協直売所にてパッション生産部会により即売会を行いました。また、6月25日の父島返還祭においても、即売会を行いました。返還祭では、審査委員長である所長から、島民および観光客の前で審査結果および講評の発表がありました。〈宗〉

～ 小笠原村 PR イベントでパッション販売 in 都庁 ～

5月25～30日にかけて、新宿の都庁2階の全国PRコーナーにて小笠原村PRイベント(村主催)を開催しました。世界自然遺



写真2 都庁でのPRイベントの様子

産登録への取り組みの紹介、パッションフルーツや島の特産加工品の販売などを行いました。庁舎ホールにはパッションフルーツの香りが漂い、多くの方々に来場していただきました。半数以上の方がパッションを食べるのが初めてでしたので、食べ方の説明や保存方法などを丁寧に説明しました。販売期間内にはリピーターもいて、本土でのPRの余地はまだまだあることを実感しました。

〈 宗 〉

～ 世界自然遺産に登録されて ～

登録されました！

小笠原諸島は第35回世界遺産委員会（パリ：ユネスコ本部）において、世界自然遺産に登録されることが決定されました（日本時間6月24日22:50）。登録の理由は、小笠原の維管束植物と陸産貝類は固有種率が極めて高く、適応放散という、貴重な進化の過程を見せてくれるためです。その貴重な自然の保全に対し、国や都、村、NPO、そして住民といった様々な主体により保全活動が行われていることも、今回の登録という結果に繋がっています。

農業への影響は？

小笠原は海洋島であるために外来種の侵入に極めて脆弱です。世界遺産委員会は、侵略的外来種対策の継続を強く求めています。貴重で美しい小笠原の自然を将来世代に継承するために、農業活動においても十分な理解と配慮が必要です。

まず理解していただきたいことは、小笠原で農業が営まれている地域（農業地域）は、

世界自然遺産として指定された地域から除かれています。このため、登録による農業活動への直接的な影響は少ないと思われます。しかし、他地域からの種苗の導入や、栽培している作物からのエスケープ（種子やひこばえ等により意図しない区域にまで拡散し、野生化すること）等には十分に注意しなければなりません。具体的には、容易にエスケープする植物を導入しないことや、余った苗や剪定枝、果実などをむやみに放棄しないことなどがあります。

農業にとってプラスにしましょう！

世界自然遺産への登録により、注目度は高まり、小笠原の農作物の需要は増大することが予想されます。固有の生態系を支えながら、増大するニーズに的確に答えていくことが、これらの小笠原農業に求められます。世界に誇る美しい土地ではぐくまれた「世界自然遺産・小笠原育ち」という新しいブランドが誕生するよう、農業センターは応援していきたくと思います。

<渋谷>



図1 世界遺産のロゴマーク

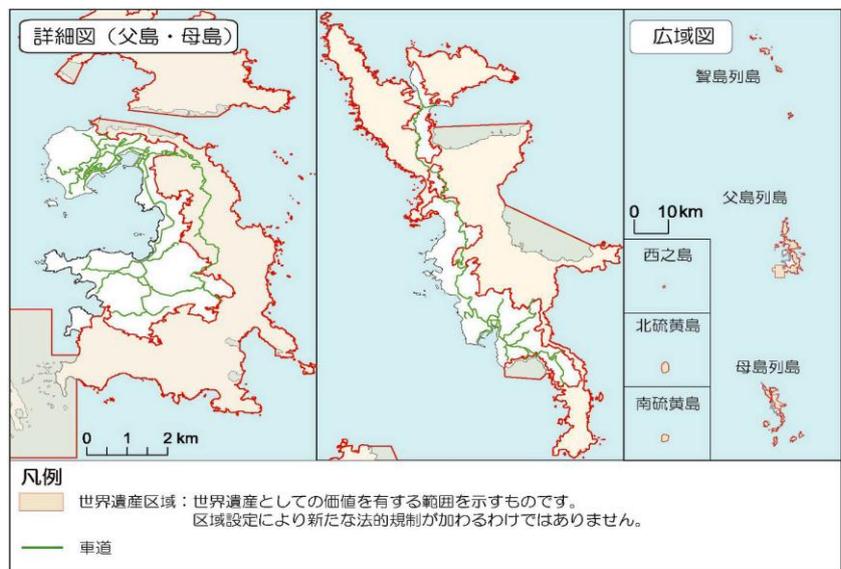


図2 世界自然遺産として価値を有する区域（農業地域は外れています。詳細はセンターHPのカラー版を参照して下さい。）

～ ミニトマトの黄化葉巻病耐病性品種 ～

1. トマト黄化葉巻病と耐病性品種

小笠原ではまだ発生は見られませんが、内地ではトマト黄化葉巻病が発生しています。トマト黄化葉巻病はタバココナジラミが媒介する植物ウイルス病で、このウイルス病に罹ると減収が著しく、甚大な被害になることがあります。この対策として、0.4 mm以下の目合いの防虫ネットをハウスの開口部に張りタバココナジラミの侵入を防止する等がありますが、近年耐病性を持つ実用品種が育成されています。

今回、ナント種苗の「プチキュア」と朝日工業の「リトルジェムTY」の果実特性を調査しました。何れも、国内で確認されているトマト黄化葉巻病の2つのレース[イスラエル系統]と[マイルド系統]の双方に耐病性を有しています。標準品種として「甘っこ」を用い、1～2月に収穫した果実を調査しました。

2. 耐病性品種の果実特性

上物果率を見ると、「甘っこ」の82.4%に比べ、「プチキュア」91.4%、「リトルジェムTY」89.3%と高くなりました。これは双方の裂果が少なかったためで、「プチキュア」「リトルジェムTY」は「甘っこ」に比べ裂果しにくい品種といえます。

果実品質を見ると、「リトルジェムTY」の果重は「甘っこ」より重く、17.5gでした。糖度と酸度は両種とも「甘っこ」より低く、特に「プチキュア」は糖度 9.8Brix%、酸度 0.70g/100mL と最も低い値でした。「プチキュア」は「甘っこ」に比べ、淡白な食味であると思われます。

食味アンケートの結果を見ると、果皮色は「プチキュア」が濃く良好ですが、総合評価では「プチキュア」「リトルジェムTY」共に「甘っこ」より劣っていました。これは甘味が「甘っこ」より弱かったためと考えられます。

この結果より、「プチキュア」「リトルジェムTY」は上物果率では良好ですが、糖・酸度と食味において「甘っこ」に劣るといえます。

	上物果率 (%)	下物果の内訳 (%)		
		裂果	キズ	その他
プチキュア	91.4	7.7	0.8	0.1
リトルジェムTY	89.3	9.2	1.2	0.3
甘っこ	82.4	17.4	0.1	0.4

	果重 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100ml)	糖酸比
プチキュア	16.5	9.8	0.70	14.0
リトルジェムTY	17.5	10.1	0.80	12.6
甘っこ	14.8	11.4	0.99	11.5

		プチキュア	リトルジェムTY	甘っこ
果皮色	(淡1-5濃)	4.8	3.2	3.8
硬さ	(軟1-5硬)	3.2	3.0	3.3
甘味	(弱1-5強)	3.6	3.8	4.4
酸味	(弱1-5強)	2.6	2.8	2.8
総合評価	(悪1-5良)	3.2	3.4	4.0

3. トマト黄化葉巻病を防ぐために

小笠原ではトマト黄化葉巻病は確認されていません。また、侵入した場合でも、小笠原の気候、栽培環境でどのように発生するか、わからないことが多くあります。

小笠原に病害虫を持ち込まないように注意することが大切です。そして、圃場で異常な作物が見られましたら、亜熱帯農業センターまでご連絡ください。

<馬場>

～ 今年の研究計画 ～

亜熱帯農業センターの研究課題は現在、次の3つに大別されています

- (1) 特産熱帯果樹等の安定生産技術の開発
- (2) 小笠原諸島自生種による植生回復技術の開発
- (3) 病害虫防除試験

主要な品目ごとに今年度実施する研究について簡単にご紹介します。得られた成果のうち、一定のレベルに達したものは、成果報告会や成績書等で報告します。

(1) 特産熱帯果樹等の安定生産技術の開発 パッションフルーツ

夏の観光シーズンにおける供給をめざした長期貯蔵技術を検討します。また、台農1号以外の品種について、特性評価を行います。

アテモヤ

8月剪定→2月収穫という新しい栽培サイクルにおける、結果枝特性や開花特性などについて調査します。

ホワイトサポテ

品種ごとの果実肥大特性を明らかにすると同時に、着色程度と収穫時期との関係について調査します。

ジャボチカバ

開花と結実、収穫の年間サイクルについて明らかにするとともに、時期別の果実特性を調査します。

レイシ

1果重や大きさ、糖度、酸度などの果実特性について調査し、品種ごとの特性を明らかにします。

グレンシ

施設内における冬季収穫技術を確立するために、栽培に関する基礎的データを収集しています。特に今年は結果枝と果実品質について調査します。

(2) 小笠原諸島自生種による植生回復技術の開発

小笠原自生植物の生産技術

小笠原の乾性低木林を構成する樹種・草種について、発芽条件を調査するとともに、鉢上げ後の管理について検討します。

小笠原自生植物による植生管理技術

モクマオウ林から自生種による植生を回復させるための植栽(移植)方法やモクマオウの駆除方法について検討します。

(3) 病害虫防除試験

アフリカマイマイ

小笠原の貴重な自然と農業の共生を目的とし、防除薬剤が小笠原の固有陸生貝類に与える影響を調査します。

その他の病害虫

ノヤシ等のヤシ類を加害するカンショオサゾウムシの被害防止対策や、野菜類に対するヨトウ類、オクラやハイビスカスを加害するフタテンミドリヨコバイ、マンゴーやアテモヤ加害するキクイムシ類の発生消長調査を行います。その他、プルメリアさび病などについて、調査を行います。

この他にも、かんきつ類や嗜好品など、研究課題以外の品目についても取り組んでいますので、ご期待ください。 <渋谷>

カラー版農業センターニュースは亜熱帯農業センターのホームページに掲載しております。

 検索

小笠原支庁 → 小笠原亜熱帯農業センター → 農業センターニュース